

お忙しくても、約 2 分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

これからの経済は「分配」が中核となる 宮内 義彦 (オリックスシニアチェアマン)

1. 平成は、ものすごく変化に満ちた時代でした。まず、平成になってすぐの 1989 年に冷戦が終わり、ほどなくして日本のバブル経済が崩壊しました。モノづくりの拠点が日本から中国をはじめ新興国へ移り、それまでの「世界の工場」として発展してきた日本の仕組みが変わり始めたのもこの頃です。
2. 世界の市場に打って出たイノベティブな経営が、あっという間にコストカット経営になってしまいました。トップライン (売上高) を上げようとせず、経費をカットして何とかつじつまを合わせようとする。非常に後ろ向きな経営です。リストラこそ経営であるというマインドが、今日に至るまで続いてしまっています。
3. これからの経済は、いかに成果を伸ばしていくかよりも、その成果をどう分け合うか、いわゆる分配が焦点になるかもしれません。テクノロジーが進化し、今後 AI (人工知能) やロボットが働くようになれば、生産などの経済活動は勝手にやってくれます。となると一層、分配が経済の中核を占めるようになるわけです。
(参考:「日経ビジネス」2019 年 1 月 28 日号)

経営者のための危機管理

日本の低生産性の要因 (モンスタークレマー)

1. いま世の中には、モンスター化したクレマーや社員が急増している。モンスタークレマーによる迷惑行為の中身を見ると、最も多いのは「暴言」「脅迫」で、「何回も同じクレーム」「説教」も相当数に上っている。モンスター化した客や社員への対処は、企業にとって死活問題なのだ。さらに、モンスタークレマーは、日本の労働生産性の足かせとなっている可能性がある。
2. 日本の生産性が低水準にとどまっているのは、サービス業の生産性が低いからだ。それは日本のサービス業が、「お客様は神様」「安いのはいいこと」という二つの価値観を信奉するあまり、価格に見合わない過剰サービスを提供し続けてきたことに起因している。

(参考:「週刊ダイヤモンド」: 2019 年 2 月 16 日号)

経営者のための理念・哲学

勤労観について 田口佳史 (東洋思想家)

1. 悟りに至る道を歩むことが「道」の意味です。だから、茶道というのは、うまいお茶をあてることが目的ではなく、茶の湯を通じて悟りに至ることを目指している。では悟りとは一体何か。覚悟という字が「悟りを覚える」と書くように、悟りとは覚悟を決めることです。
2. 覚悟を決めた時に悟りに至れるのであり、そこに至るまでの過程が修行である。では修行と単なる作業はどこが違うのかというと、道元は「一つひとつ丁寧に、心を込めて」、それだけだと。毎日毎日、自分の所作を丁寧に、心を込めて、一所懸命磨いていく。これが日本人の勤労観です。その根底には敬と愛、つまり天が人間に愛を施し、それに対して人間は天を敬う。こういう思想があるわけです。

(参考:「致知」2019 年 3 月号)

古典に学ぶ

真の英雄豪傑

(解説) 史乗などに見ゆるところの英雄豪傑には、とかく智情意の三者の^{けんこう}権衡を失した者が多いようである。すなわち意志が非常に強かったけれども智識が足りなかったとか、意志と智恵とは揃っていたが、情愛に乏しかったとかいうごとき性格は、かれらの間にはいくらもいた。かくのごときものはいかに英雄で豪傑でも常識的人とは言われぬ。

(参考: 洪沢栄一「論語と算盤」: 国書刊行会)